

2021 年度専門学校長野ビジネス外語カレッジ

学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：2020 年 4 月 1 日

至：2021 年 3 月 31 日

専門学校長野ビジネス外語カレッジ

学校関係者評価委員会

専門学校長野ビジネス外語カレッジ学校関係者評価委員会は「2020年度自己点検・自己評価結果」を基に学校関係者評価を行った。その結果を以下のとおり報告する。

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

専門学校 長野ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②本校と密接に関係する団体、企業の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

専門学校長野ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価は、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

2021年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。

- ① 第1回目(7月)に実施する委員会は、2020年度(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
- ②第2回目(11月)に実施する委員会は、各評価項目に対して学校関係者評価委員会から評価報告をする。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として以下、企業、関係業界に委嘱した。

氏名	所属	
岡田 基幸	AREC 浅間リサーチエクステンションセンター	企業・業界団体関係者 評価委員長
石坂 大輔	渋温泉小石屋・株式会社ヤドロク	企業・業界団体関係者
林 辰幸	林行政書士事務所	企業・業界団体関係者

後藤 公彦	株式会社明神館	企業・業界団体関係者
仲西 裕紀	店舗流通ネット株式会社	企業・業界団体関係者

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

2021年度第1回学校関係者評価委員会		
日時：2021年7月1日 15:00～16:30		
場所：専門学校長野ビジネス外語カレッジ 4F		
会議次第		
時間	項目	担当者
15:00	開会挨拶	浅野校長
15:10	評価委員長挨拶	岡田委員長
15:15	2020年事業報告・2021年事業計画報告	浅野校長
15:30	2020年度教育活動成果報告	堀内
15:45	2020年度学校自己点検・自己評価報告	李
16:00	意見交換会	
16:30	閉会の辞	高木

2021年度第2回学校関係者評価委員会日程		
日時：2021年11月26日(金) 13:00～14:50		
場所：専門学校長野ビジネス外語カレッジ 4F		
会議次第		
時間	項目	担当者
13:00	開会挨拶	荻野代表取締役社長
13:10	委員・役員紹介	浅野校長
13:25	2021年度教育活動・キャリア活動報告	堀内・高木
13:50	2020年度学校自己評価講評・意見交換会	各委員
14:40	閉会挨拶	井上取締役

4. 基準項目ごとの学校関係者評価及びご意見

1 教育理念・目的・育成人材像等

後藤委員	外国人の留学生が多く、日本にいながらもグローバルな教育が受けられる環境ということを近隣高校などに徐々にアピールできてきているように感じる。
------	---

2 学校運営

岡田委員長 後藤委員	コロナ過で生徒の在籍確保が難しい中運営ができていているというのはここ数年における運営実績の成果だと思う。 引き続き、今想定外の事態への備えが必要になると思う。
林委員・石坂委員 →回答：李	「学生管理システム（ Campusmate J ）、活用について教職員と学生間の温度差があり～」このことについて、システムが浸透しない原因はなにか。 学生管理システムについては、毎年学生からのフィードバックを基にシステムの改善を行っているため、徐々に浸透してきてはいる 引き続き、学生が使いやすいシステムへと改善を行う。

3 教育活動

岡田委員長 →回答：岩本	オンライン環境が整備されたことによって、対面ではできなかったことが出来るようになってきたと思う。オンラインでの教育方法についてのノウハウがあれば共有してほしい。 グループ校全体で、オンラインにおいても対面と変わらず質の高い教育を如何にして提供できるかを検討するプロジェクトチームを立ち上げている。 現在日本語学科では、自宅（オンライン）でインプットを行い、教室（対面授業）ではアウトプットを中心とする学習方法（LMS）を採用していく流れとなっている。
石坂委員 →回答： 堀内・岩本	実務家教員も多いと思うが、実務の能力と教える能力は全く別であると思うので、「教え方」の研修を実務家教員には必須にした方が良くと思う。 教職員への教え方の研修については、昨年度より「教職員研修」を導入している。 今年度も12月に、諸研修を行う予定。

<p>後藤委員 仲西委員</p> <p>→回答：堀内</p>	<p>日本語教育においても講師会などで「教え方研修」を行っている。</p> <p>非常勤講師として授業を受け持つ側から、学生間での語学力（特に日本語力）の差があることが気になる。</p> <p>（話をすることは上手だが作文は書けないなど）なにか対策は出来ないか。</p> <p>学校内で行う通常授業とは別に、授業外に行う自習方法によって言語能力の習得に大きく影響がでているように思える。（現在、技能実習生に対する特定技能教育と照らし合わせてそのように感じる）そのため、JLPT等のペーパーテストではなく、企業との面接や実際の仕事で役立つ、会話教育の拡充の価値があるのではないか。</p> <p>実際に JLPT の N1 を持っても、テーマが与えられてそれに対して自分の考えを述べたり、説明をしたりといったことが苦手な学生もいる。</p> <p>この点を改善するために、昨年度から全コースで「スピーチ&プレゼンテーション」という授業を導入し、テーマに対して意見を述べる・人に分かりやすく説明するという事に重きをおいて授業を展開している。</p> <p>JLPT だけでなく、何か会話系の資格の取得ができるような試験（と試験対策授業）を模索していたところだったので、今回のご提案を大いに参考にさせていただく。</p>
------------------------------------	---

4 教育成果

<p>林委員</p> <p>→回答：李</p> <p>後藤委員</p>	<p>在学中のアルバイトのやり過ぎに注意を払っていただきたい。</p> <p>入学者選抜の時点で、可能であれば経済状況を確認できないか。</p> <p>また、本国大学卒業の有無も極めて重要なため確認できないか。</p> <p>コロナ禍以前は本国の大学を中退して日本に留学するケースが散見された（就職時の履歴書より）</p> <p>入管法は大卒資格の有無に大きなハードルを設定しているため、現地学生募集の際、本国大卒後に留学するように働きかけができないか</p> <p>本国の大卒か否かについての確認は、日本語学科においては募集担当を介して詳細まで確認を行っている。</p> <p>その上で、可能な限り大学卒業後もしくは、（退学ではなく）大学を休学した状態での留学を勧めている。</p> <p>しかし他の日本語学校から本校の専門学校に進学をしてくる学生については、学歴についてのアドバイスができないのが現状である。</p> <p>毎年経済的困難で退学される学生が数名いるが、何か彼らが日本に残</p>
-------------------------------------	---

<p>→回答：李</p>	<p>れるような支援はできないか。 入学希望者の経済状況等の確認について、本校では数年前から入管と同等程度の確認を行っており、経費支弁能力を中心に、問題ない学生のみを選抜して受け入れている。(通帳コピーの提出、残高証明の提出など) しかし入学後急に著しく経済状況が悪化した学生もいる。 学校としてはそういった学生に対しても可能な限り学費等の納入期限の猶予を行っているが、本人が帰国をしなければならなくなってしまう等の理由から退学になる学生が数名発生している。</p>
<p>仲西委員</p>	<p>アフターコロナの中、外食業の求人回復が顕著になってきた。また、コロナ以前に比べて、特定技能求人も増えており、特定技能試験合格サポート、学校説明会の開催等の効果が得られやすい状況となっているように感じる。</p>

5 学生支援

<p>岡田委員長</p>	<p>コロナ禍のような、非常時における留学生支援のあり方を考えておくことも必要に感じる。</p>
<p>石坂委員</p>	<p>経済的な支援のため、学校が「良い」アルバイトのあっせんや、学費を補助してくれる企業を集めるなど(就職を前提に)できないか。</p>
<p>仲西委員</p>	<p>28時間以上のオーバーワーク抑制のための教育活動、国民年金免除申請、国民健康保険等の納付状況の確認、国民年金免除などの確認はできないか。</p>
<p>→回答：佐藤</p>	<p>アルバイト活動については定期的に啓蒙を行っている。また、税金関係については、12月以降市役所の方をお招きして税金セミナーを開催していただく予定。その際に払うべきものや免除申請ができるもの等分かりやすくご説明いただく予定。</p>

6 教育環境

<p>岡田委員長</p>	<p>密を避けるための授業環境のありかた。(お互いに)今後に向けた模索が必要</p>
<p>石坂委員</p>	<p>インターンシップについて、学校の先生が適宜学生の活動の様子を見に来たりすると学生はやる気が出ると思う。何をやったかと感じたこと、またインターンシップを通じて自分の将来を考える報告会は必要。</p>

→回答：高木	<p>ただ働くだけではなくアウトプットの機会も。</p> <p>また、要望を挙げるとすれば、日本人の就活の開始時期と比べて本校の学生の開始時期が遅い事。いくら優秀な学生でも、すでに決まった内定枠を変更してまで採用することは難しく、「もっと早く応募してくれば」という現地の声がある。動き初めが早くなることを期待している。日本人の就活スケジュールと留学生の動き始めにズレがある点は、キャリアセンターとして変えていかなければならない点だと認識している。</p> <p>徐々に日本人学生のスケジュールと合わせ、夏休み前には面接まで行けるような流れに変えていきたい。</p> <p>インターンシップのあり方については、兼ねてより改善をしたいと考えていた。コロナ禍において中々思うように変えられない部分もあったが、引き続き注力していく。</p>
--------	--

7 学生の募集と受け入れ

岡田委員長	<p>高校生や地域の方との交流が増えたことは大変素晴らしいと思う。相互理解がより深まるのでは。引き続き積極的に活動を。</p> <p>またコロナ禍によって、空き教室が出ているかと思う。人材の活用と共に空き教室の活用ができればいいのでは。</p>
仲西委員	<p>特定技能就職プログラムなど、時代のニーズにあった専門課程の開催が望ましい。また、入学動機を可能な限り明確化するためには、会話教育とその成果の見える化を行い、早期に企業から内定をもらえる教育プログラムを策定したい。</p>

8 財務

コメントなし	
--------	--

9 法令等の遵守

コメントなし	
--------	--

10 社会貢献

岡田委員長	<p>コロナ禍だからこそ、留学生ならではの地域貢献の仕方の開拓を希望する。</p>
-------	---

石坂委員	国際色豊かな人材を認知してもらうために上田だけではなく、長野県と国際的な業務で提携するなどできないだろうか。
後藤委員	海外の学生が多い強みを生かして、さらなる地域貢献・交流を期待する。

以上